

めぐみイエス・キリスト教会

2021年2月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第543号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌467「世の終わりのラッパ」 p. 752

【交読文】 No.4 詩篇第18篇 p. 881

【賛美Ⅱ】 新聖歌364「わが主イエスよ」 p. 584

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美20「キリスト讃歌」

【聖書朗読】 使徒の働き8章1節～3節

【礼拝説教】 《迫害者サウロ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【使徒の働き8章1節～3節】

8:1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。

8:2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。

8:3 サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。

●ポイント1. サウロの経歴とは？

※使徒の働き22章3節「エルサレム市内において」 (新約p.281上段)

22:3 「私は、キリキアのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しく教育を受け、今日の

皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。」

※ピリピ人への手紙3章4節～6節「パウロの証しから」 (新約p.398上段)

3:4 ただし、私には、肉においても頼れるところがあります。ほかのだれかが肉に頼れると思うなら、私はそれ以上です。

3:5 私は生まれて八日目に割礼を受け、イスラエル民族、ベニヤミン部族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法についてはパリサイ人、

3:6 その熱心については教会を迫害したほどであり、律法による義については非難されるところがない者でした。

●ポイント2. サウロは、なぜ教会を迫害したのか？

※使徒の働き7章51節～57節「ステパノの弁明から」 (新約p.247下段)

7:51 「うなじを固くする、心と耳に割礼を受けていない人たち。あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖たちが逆らったように、あなたがたもそうしているのです。

7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、誰かいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって告げた人たちを殺しましたが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。

7:53 あなたがたは御使いたちを通して律法を受けたのに、それを守らなかったのです。」

7:54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりしていた。

7:55 しかし、聖霊に満たされ、じっと天を見つめていたステパノは、神の栄光と神の右に立っておられるイエスを見て、

7:56 「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます」と言った。

7:57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、一斉にステパノに向かって殺到した。

●ポイント3. サウロは主イエスに、十字架以前に会った事があるのか？

※マタイの福音書19章16節～26節「一人の役人の青年」(新約p.39上段)

◎先週のメッセージの概要【心の平安をはばむもの】

《主イエスを信じる者には、真の平安が与えられています。「聖霊を受けなさい」と、主が言われた聖霊なるお方は、私たちの中に住んでおられます。それこそが、真の平安を持っている証拠であり、救いの保証なのです。しかし、悪魔はその平安を奪おうと、様々な攻撃を仕掛けて来ます。

心の平安をはばむものの第一は、赦さないことです。ある時、ペテロが主イエスに質問しました。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯した場合、何回赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」と。主イエスは答えられます。「私は七回までとは言いません。七回を七十倍するまでです。」

人を赦すことは非常に難しいことです。しかし、十字架によって、私たちの罪は赦されたのです。だからこそ「赦しなさい」と、主は言われます。

次に心の平安をはばむものは、「思い煩い」です。パウロは勧めます。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、神の平安が、あなたがたの心と思いを主にあって守ってくれます。」

そしてペテロもこう勧めています。「あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配して下さるからです。」

「思い煩い」は、主イエスに対する不信仰の何ものでもないのです。そして最後に、心の平安をはばむものは「試練」です。パウロは言います。「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、試練と共に脱出の道も備えて下さいます。」と。

この言葉は、真に信頼に値する言葉です。なぜならパウロ自身が経験した心の叫びだからです。そしてさらに、「神を愛する人たち、神のご計画にしたがって召された人たちの為には、すべてのことが共に働いて益となることを私たちは知っています。」と、証ししています。主イエスに対する信仰こそが、真の平安を心の中に置き続けることになるのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年2月14日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、2月10日(水)各家庭において行ないます。